

観光交流促進調査特別委員会行政視察報告

観光交流促進調査特別委員長 金子 孝

【視察日程】 平成 28 年 11 月 15 日（火）～17 日（木）

【視察委員】 金子孝委員長，平松洋一副委員長，渡辺均委員，佐藤耕一委員，阿部松雄委員，
荒井宏幸委員，渡辺有子委員，野本孝子委員，宇野耕哉委員，栗原学委員，
小泉仲之委員，佐藤誠委員，深谷成信委員

【視察地】 神戸市，(株)伊賀の里モクモク手づくりファーム（三重県伊賀市），三重県，志摩市

【調査事項】 神戸市：神戸港開港 150 年に向けた取り組みについて

(株)伊賀の里モクモク手づくりファーム（三重県伊賀市）：

伊賀の里モクモク手づくりファームにおける観光誘客の取り組みについて

三重県，志摩市：伊勢志摩サミット終了後の観光交流促進の取り組みについて

○ 神戸港開港 150 年に向けた取り組みについて【神戸市】

1. 調査の目的

本市は 2019 年 1 月 1 日に新潟港開港 150 周年を迎える。この記念行事を盛り上げていくためには、どのような取り組みをしていくことが本市のためになるのか。

2017 年 1 月 1 日に神戸港開港 150 周年を迎える神戸市は、既にさまざまな取り組みを行い、成果を挙げている。それらを調査し、これからの本市の取り組みの参考にしたい。

2. 神戸港の歴史

日本書紀によると、201 年、神功皇后の征韓凱旋のとき「務古水門（むこのみなど）」に還り…と記述がある。

平安時代（9 世紀頃），平清盛が日宋貿易の拠点として「大輪田泊（おおわだのとまり）」として修築。泊の前面に人工島，経ヶ島を福原京とともに築いた。これが現在の神戸港のルーツである。

嘉永 6 年（1853 年），ペリーが軍艦 4 隻で浦賀に来航し，鎖国を破り開国を要求。

翌年，日米和親条約を締結。

安政 5 年（1858 年），日米修好通商条約調印。函館・神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港を約束。

横浜開港以降，外国人殺傷事件等が続発。その後，幕府は開港の 5 年延期を申し入れ，兵庫は慶応 3 年 12 月 7 日（1868 年 1 月 1 日）に開港。

3. 神戸開港 150 周年記念事業の取り組みについて

（1）統一スローガン

2017年1月1日に開港150周年を迎えるにあたり、市民とともに祝い、海、船、港への関心を深め、神戸港のさらなる発展のスタートとする。

神戸港は「神戸のまちの礎」であり、「神戸文化・産業の礎」。神戸の礎である神戸港を「わたしたちの港」と再認識する統一スローガンとして「みんな みなと KOBE」を制定。

(2) 実行委員会

神戸開港150周年記念事業実行委員会は、各界を代表する、そうそうたるメンバーがそろった大きな組織である。

役員は9名。会長を神戸市長が務め、副会長4名、名誉顧問1名、顧問3名。委員は55団体の代表で組織されており、行政、港湾業界団体、経済団体、文化・観光、大学、マスコミ、市民団体、神戸市外郭団体などから選出されている。監事は2団体から選出されている。

その下に、幹事会（ワーキンググループ）と各事業推進委員会が組織されている。

150周年の2年前にあたる平成27年1月に第1回目の実行委員会が開催され、その後、ほぼ半年に1回のペースで開催されている。

(3) 国際会議

平成29年1月に神戸国際会議場にて開催予定。神戸港の姉妹港・友好港や、経済成長著しいアジア地域等の主要港20港の港湾管理者の招致を目指している。

議題（案）は、（1）アジア物流の展望、（2）アジアクルーズの展開である。

この会議をきっかけに、東南アジアと物流の協定を結び、事業拡大を考えている。

(4) クイーン・エリザベス神戸発着クルーズ

世界でも最も有名な大型客船が、150周年を記念して、2017年3月13日～20日、神戸を起点に発着クルーズ（8日間）を実施する。

2017年ワールドクルーズ122日間（サウサンプトン発着、1月7日～5月8日）の中に組み入れてもらい、鹿児島、釜山、広島を回る。

(5) 神戸開港150周年記念式典・祝賀会

国を代表する方々を国内外から迎え、記念式典・祝賀会を2017年5月に神戸ポートピアホテルで開催する。神戸港の港運業界、船社、関連団体などを代表する方々や国内外の船社を代表する方々の臨席を検討している。

内容としては、主催者挨拶、来賓式辞、港湾功労者顕彰、神戸港の将来像の発表が予定されている。神戸港の将来像は、概ね30年後の神戸港の目指すべき姿を策定する。

(6) 海フェスタ

日本最大級の海の祭典「海フェスタ」を、2017年7月15日から8月6日まで、メリケンパークを中心に神戸港周辺で開催する。

主なイベント（案）は、記念式典、帆船フェスティバル（10隻を目標に誘致中）、みなとまつり、神戸港の見学、海の総合展・絵画展、シンポジウム、開港150年版みなとこうべ海上花火大会を予定している。



(7) 秋の「食」イベント

神戸から全国に広まったグルメを楽しめるイベントを2017年9月、メリケンパークなど港への集客が期待できるエリアにて開催する。

「食」を通じて、市民や来場者に、開港が神戸の町の成り立ちの礎となっていることを再認識していただき、「みんなのみなと」にさらなる愛着をもってもらおう。

(8) プレイイベント・関連イベント

(ア) 松方コレクション展

川崎造船所、神戸新聞社の初代社長として神戸発展の基礎を築いた松方幸次郎氏が収集し、戦前の金融恐慌で国内外に散逸してしまった美術品の特別展示を開催。

(イ) 神戸みなとアンバサダー マリンルックプロジェクト

(ウ) 神戸開港 150 周年音楽祭

2017年5月20日(土) 18:00~20:00 前夜祭 J-POP, K-POPのステージ

2017年5月21日(日) 16:00~20:00 メインフェスティバル 著名な歌手のステージ
メリケンパーク特設会場にて

(エ) その他のイベント

①レッドブル フルークターク

②アイスアリーナ

③東京ディズニーシー15周年記念展示

(オ) 民間企業とのコラボレーション

セブン-イレブン, アサヒビール, 神戸文明堂ほか

(カ) 都心・ウォーターフロントエリア再開発

①複合施設 2015年12月17日グランドオープン

ホテル「神戸みなと温泉 蓮」, コンベンション「OCEANS GARDEN」

②港湾労働者の総合福利厚生施設「神戸ポートオアシス」の整備

③メリケンパークのリニューアル

④須磨海岸再整備事業

(キ) 海事分野の人材育成・確保

4. 所見

神戸港開港 150 周年記念日に当たる 2017 年 1 月 1 日を真ん中に、前後足かけ 2 年間にわたり、記念事業をあらゆる角度から幾つも展開している。150 周年に絡めて、これでもかと言わんばかりに仕掛けているような印象である。このたくましさ、しづときは見習いたい。

記念事業は、単なるお祭り騒ぎではなく、これをきっかけに次のステージにつなげたいという意図もあるようだ。国際会議は情報交換のみにおさまらず、しっかり協定を結び、事業拡大につなげたいと狙いを定めている。記念式典では、30 年後を見据えた将来像を制定する予定である。再開発や整備事業は、以後、市民にとって利便性が向上することになる。さまざまな記念フェスティバルは、好評であれば毎年恒例のフェスとして、にぎわい創造に一役買うことになるであろう。このように、本市にとって役立つ、遺産となるような記念事業をさまざま創造してほしいと思った。

説明にはなかったのですが、総予算額を質問したところ、明確な回答はいただけなかったが、過去に開

港 125 周年記念事業を行った時は 5 億 5 千万円だったのでそれくらいではないかと思われるとのことであった。これは市の一般財源だけでなく、民間企業からの協賛もあわせて捻出された金額であった。金銭面だけでなく、各事業の開催に当たっても民間の活力や専門性が発揮されていると感じる。

神戸市は、この事業の成功に向けて取り組む気運が、行政だけでなく企業や団体、そして市民全体に広がるように動いている。さらに、イベントをやって終わりではなく、未来の神戸港にどう影響を与えるか、市民が考える機会としたいそうである。本市にも通じる大切な考え方であると感じた。

○ 伊賀の里モクモク手づくりファームにおける観光誘客の取り組みについて

【三重県伊賀市 ㈱伊賀の里モクモク手づくりファーム】

27 年前に、三重県の豚肉を販売することを目的とし法人を設立。

当初は「ハム工房モクモク」として、ハム製造を主事業とし、小売業者や流通業者を意識した経営をしていたが、「業界や販売店の常識より消費者のニーズ」にシフトしたことにより、現在は年間の来場者数 50 万人、売上金額 55 億円と大きく成長している。一次業者である農業者は、販売店の下請けのようなシステムに組み込まれ、価格を決定することができず、結果として下請産業は儲けることができないとの気づきから発想を変えたとのことであった。

この発想ができたのは、会長が元 J A 勤務であり、業界の流通の仕組みを熟知していたからではないかと推察される。農に関する事業に限ったことではないが、キーパーソンとなる人が存在しなくてはビジネスの成功はないと思われた。

観光地としては、「遊ぶ」から「学ぶ」へ移行しており、食育の体験を通じて、食への信頼性を高めつつ付加価値を高めている。また「見る観光」から「買い物をする観光」へ移行し、食べることをメインに据えることでリピーター客を確保できていると思われる。さらに、観光業は一過性が問題と



なるが、ウェブショップやアンテナショップでつないでおり、ビジネスモデルとしては理想的な展開をしている。

今後の展望として、外国人を対象とした食育体験も企画しており、インバウンド効果も見込められると思われる。

繰り返しになるが、こういった事業はキーパーソンとなる人物が必須で、将来を見据えた取り組みを機動的にやっていく必要があると思われた。

○ 伊勢志摩サミット終了後の観光交流促進の取り組みについて【三重県，志摩市】

1. 概要

- ・2016年5月26・27日 伊勢志摩サミット（G7首脳会議）開催
- ・テーマ：世界経済・政治外交・気候変動・エネルギー・環境・開発
- ・G7伊勢志摩首脳宣言を採択

世界経済の下方リスク，国際秩序に対する一方的な行動による挑戦といった喫緊の課題に対し，自由・民主主義，基本的人権の尊重，法の支配といった普遍的価値に立脚したG7として，連携して国際社会の取り組みを主導していくことで一致。

2. 伊勢志摩サミットの成功に向けた取り組み

- (1) 開催支援とともに，地域の総合力の向上につなげるための「おもてなし大作戦」
……クリーンアップ作戦・花いっぱい作戦・外国語案内ボランティアなど
- (2) 子供たちを初め，世界との交流を進め，三重の希望を明日へつなぐ
……2016ジュニア・サミット in 三重，大学生国際会議 in 三重の開催など
- (3) 各種イベント等，あらゆる機会を通じた情報発信

■こんな影響も

○サミット・バブル

(例) 首脳会議で乾杯に使用した三重の地酒の酒造元が，サミット終了後1日で1年分の売り上げがあった

○サミット・ロス

(例) 過疎地に全国から若い警官が集まり，にぎやかだったのが，去ってしまい再び寂しくなった

3. 成果

- (1) サミットの「レガシー」（サミットの開催により地域にもたらされる有形，無形の好影響）
 - ①知名度の向上……伊勢神宮訪問・県産食材等の活用
 - ②会議自体の成果……宣言・方針・共同声明等，それに基づく計画，取り組み
 - ③地域の総合力の向上……県民や地域の一体感の醸成・郷土への愛着や誇りの高まりなど
- (2) ポストサミットに向けた取り組みの具体化
 - ①人と事業を呼び込む……知名度等の向上を最大限に生かし，国内外の人々と事業を呼び込み
 - ・MICE誘致
 - ・海外誘客推進プロジェクト
 - ・みえの農林水産物の魅力総合発信事業 など
 - ②成果を発展させる……サミットそのものの成果を引き継ぎ，発展させる取り組み
 - ・安心，安全まちづくり
 - ・みえの農林水産「八百万サミット」開催事業
 - ・みえの環境技術移転国際会議開催事業 など

③次世代に継承する……サミットを通じて高まった地域の総合力を次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取り組み

- ・三重県高校生サミット開催事業
- ・大学生・留学生との交流事業
- ・未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業 など

4. サミット終了後の課題

(1) 三重県観光の課題と新たな展開

①課題：観光消費額の伸び悩み、働く場としての観光関連産業の活性化

②新たな展開：三重県観光振興基本計画（平成28年度～31年度）を策定

- ・観光産業化のさらなる推進戦略【多様な関係者と連携し、観光による地方創生】
- ・サミット開催等の好機を生かした誘客戦略【みえ観光の産業化推進委員会の設置】
- ・利便性・快適性に優れた人にやさしい観光の基盤づくり戦略

を柱に、魅力ある観光の目的地として、選ばれ続ける「三重県」を実現する

■伊勢志摩サミット首脳会議メイン会場「志摩観光ホテル」の現地視察（三重県志摩市）

「ザ・クラブ」では首脳が並んだ場所での記念撮影が、「ザ・クラシック」では同じメニューの食事ができるなど、サミット後も観光誘客の取り組みがされている。

5. 所見

伊勢志摩サミットという大きなイベントの終了後の観光振興には大変な苦勞と努力が必要になっていると痛感した。イベントで終わらせることなく、持続的に発展する三重の未来を追求するため、戦略を明らかにし、日本版DMO（Destination Marketing Organization）を創設して、自治体、観光業者、宿泊施設、農林水産業、飲食店、交通業者、地域住民が連携した取り組みを展開し始めていた。具体的に、みえ食旅パスポート、欧米富裕層の誘致（インバウンド）、バリアフリー観光の推進などの成果が生まれてはいるが、これから真価が問われると思う。

地域の稼ぐ力を伸ばし、さらなる観光の産業化を推進し、三重県の経済を牽引する産業の一つとして確立することを目指すことを中心に据えた観光振興の取り組みには、本市は学ぶべきと考える。これまで本市は単発的にイベントに取り組み、交流人口をふやすという施策を繰り返してきたが、これでは真の観光振興にはならない。三重のように、観光と地元の産業や宝を結びつけてこそ、地域経済が元気になり、持続的な発展につながると思った。

